

平成30年度第1回蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

招 集 日	平成30年1月16日（火曜日）	
開催場所	蓮田市役所 3階 301会議室	
開催日時	開会 平成30年1月16日（火）午後5時00分 閉会 平成30年1月16日（火）午後7時15分	
出席状況	会 長 中山 和久	出席 ・ 欠席
	副会長 浅田 章裕	出席 ・ 欠席
	委 員 菊池 義人	出席 ・ 欠席
	委 員 廣本 覺	出席 ・ 欠席
	委 員 田口 真悟	出席 ・ 欠席
	委 員 吉澤 一徳	出席 ・ 欠席
	委 員 加藤 裕紀	出席 ・ 欠席
	委 員 高橋 恵美子	出席 ・ 欠席
	委 員 寺澤 亜希子	出席 ・ 欠席
	委 員 天野 真治	出席 ・ 欠席
出席職員	【蓮田市まち・ひと・しごと創生本部員】 蓮田市長 中野 和信 副市長 新井 勉 教育長 西山 通夫 総合政策部長 渡辺 実紀夫 総務部長 増田 和詔 環境経済部長 小林 裕 健康福祉部長 小川 金悟 都市整備部長 田島 幸則 上下水道部長 采澤 修八 会計管理者 安西 勝美 消防長 前田 淳一 学校教育部長 高橋 良一 生涯学習部長 町田 一幸 議会事務局長 斎藤 昇 監査委員事務局長 山野井 重雄 健康福祉部参事 根立 美佐子 都市整備部参事 治田 敬人 都市整備部参事 中田 美稔 都市整備部参事 竹澤 立也 【事務局】 総合政策部調整幹 山田 勝利 総合政策部調整幹 吉澤 正剛 政策調整課長 小山 猛 政策調整課 主幹 山田 百合子 政策調整課 主査 水沼 哲也 政策調整課 主事 染谷 智	
その他の出席者	広報広聴課長 金子 克明	
傍聴者	なし	
資料の確認	（略）	

1. 開会	(吉澤調整幹) (略)
2. あいさつ ・中山会長あいさつ	(中山会長) 皆様、1年ぶりとなり、ご無沙汰でございます。 前回の有識者会議から1年が経ち、皆様のご意見が反映された事業が着々と進んでまいりました。大変喜ばしいことだと思います。特に、大学等連携事業について、私は感動しています。ありがとうございます。今日も委員の皆様から貴重なご意見を賜りたいと存じますので、何卒よろしくお願いいたします。
・市長あいさつ	(中野市長) 皆様こんにちは。 ただ今、中山会長からごあいさつがありましたように、1年ぶりの会議となります。お忙しいところ「蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議」にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。 蓮田市では、ご存じのように、平成30年度が大きな節目となります。去る12月議会で、平成30年4月からスタートする市の基本となる蓮田市第5次総合振興計画の可決をいただきました。総合振興計画の他にも、「蓮田市地域福祉計画」や、「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」等の様々な計画の策定がこの時期に集中しています。蓮田市の関連する計画や、今後の国の動向を踏まえた上で、皆様方から様々なご意見やご指導を賜り、様々な施策を反映した総合振興計画の策定となりました。 話は変わりますが、本日浦和にて、市長会、町村会、議長会合同の市町村トップセミナーに参加してきました。講師は、埼玉県立大学理事長の江利川毅（えりかわたけし）氏でした。行田市出身で厚生労働省及び内閣府の事務次官や、人事院の総裁を歴任し、現在は埼玉県立大学の運営理事長をなさっているかたです。江利川氏から、これからの日本の高齢化や少子化に対する目指すべき方向性についてご講演いただきました。講演の中でとても印象的だったのは、「少子・高齢化は一つの問題として取り上げられることがよくありますが、テーマとしては別々の問題です」という部分です。どちらも深刻な問題なので、様々な施策を講じなければならない状況ですが、少子化と高齢化という別々の問題がそれぞれ解決し、その結果、相まって世の中が成り立ちますという内容の講演でした。当たり前のことですが、改めて元官僚から話を伺い、少子化と高齢化の問題について再認識させられました。有識者会議の委員の皆様はすでにご承知のことと思いますが、行政といたしましても、少子化と高齢化の問題については、改めて皆様方のご意見等を踏まえて対応してまいりたいと思っています。 また、総合振興計画や行政を進めていく上で、執行部は意思統一を図りながら様々な事業を実施していますが、私自身、国が進めている「まち・ひと・しごと創生総合戦略」事業に言われる「まち・ひと・しごと」という言葉になかなかなじめませんでした。しかし、今は「まち」、「ひと」、「しごと」という言葉が非常に奥深く、意味のある言葉だと感じています。我々執行部も「まち・ひと・しごと」という言葉を再認識し、まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づけられている事業に取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。 本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。
・委員の異動 報告	(吉澤調整幹) 中里 幸一委員 → 菊池 義人委員 藤井 政範委員 → 加藤 裕紀委員

・菊池委員あいさつ	(菊池委員) 皆様こんばんは。 中里委員に替わりまして昨年の7月1日より委員になりました菊池義人でございます。 精一杯頑張ってまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。
・加藤委員あいさつ	(加藤委員) 埼玉県利根地域振興センターの加藤と申します。 私は昨年の4月から利根地域振興センターに人事異動で参りまして、藤井委員の後任として会議に出席させていただくことになりました。微力ではありますが、少しでもお役に立てればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
・人事異動があった本部及び事務局職員の紹介	(略)
・定足数の確認	(吉澤調整幹) ここで、会議の成立についてご報告申し上げます。 本日は、吉澤一徳（よしざわかずのり）委員より欠席のご連絡をいただいておりますので、10名中9名の委員にご出席をいただいております。 従いまして、「蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱」第6条第3項の規定による定足数（半数以上の出席）に達しておりますので、本日の会議は成立いたしますことを、ご報告申し上げます。
・傍聴希望者の確認	(吉澤調整幹) 本会議は、原則公開での審議となりますが、本日は傍聴希望者がおりませんので、このまま会議を進めます。
3. 議題	(吉澤調整幹) これより先、「蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱」第6条第2項の規定により、中山会長に議長になっていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。 それでは、中山会長、よろしくお願いいたします。 (中山会長) 会長の役を承りましたので、これより先、本日の議事を進行させていただきます。 皆様、ご協力のほどよろしくお願いいたします。 議題（１）「蓮田市の人口動向について」 議題（２）「蓮田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」 議題（３）「地方創生関連交付金事業について」 は、全て関連がありますので、事務局より一括して説明をお願いいたします。
（１）蓮田市の人口動向について （２）蓮田市まち・ひと・しごと創生総	事務局説明 ・資料2 蓮田市の人口動向 ・資料3 数値目標及びK P I（重要業績評価指標）の達成状況一覧表 ・資料4 蓮田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート及び地方創生関連交付金事業評価シート（創生総合戦略評価シートに関する部分）

合戦略の進捗状況について

(3) 地方創生関連交付金事業について

・議題(1)～(3)に関する有識者会議委員からのご意見・ご助言等

事務局説明

・資料4 蓮田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート及び地方創生関連交付金事業評価シート(地方創生関連交付金事業評価シートに関する部分)

(高橋委員)

14ページのNo.33「婚活支援事業」についての質問です。

独身の20歳代後半のかたや、30歳代のかたが周りにいます。婚活イベントについて話を伺うと、婚活と題していてもただの飲み会で、そのまま終わってしまい、その先に結婚を求めているような意見でしたので、心配になりました。しかし、「はすコン」については、6組のカップルが成立したということでした。このカップルがうまくいっているのかということと、カップルが成立しやすい秘訣があるのかということが気になりました。上手な運営の婚活パーティーがあるのであれば、今後も期待できるのではないかなと思っています。

(浅田副会長)

一昨年開催した「はすコン」では、成約カップルまでは求めていませんでしたが、まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標値に設定されているので、今後はカップル成立数を求めていくということになりました。どのようにカップル成立数を把握するのかを商工課と打ち合わせをしまして、当日参加していただいた方々に市内の飲食店で翌日以降使えるチケットを配りました。後日、各飲食店を回らせていただき、実際にチケットを使用したカップルが6組いたということで、6組のカップルが成立したという報告をさせていただきました。さらにその後のことにつきましては、追いかけることが困難なため、チケットの使用をゴールと決めました。

昨年の「はすコン」は特に広報に力を入れました。ぽどという会社が作成している「大宮 BUZZ CLIP」という企業に配られる女性向けフリーペーパーに掲載していただきました。このほか、ポスターやチラシ等も作成した結果、当初の目標通り男女各25名ずつ集めることができました。今後は継続して青年会議所単独での開催が困難な部分もありますので、「ネオ・ロータス」という蓮田市の飲食コミュニティや、商工会、商工会青年部とも連携し、「はすだバル」開催にもつなげることができれば新たなまちおこしとして広がっていくのではないかと感じています。

(田口委員)

蓮田市内には、40歳までの団体として、青年会議所と商工会青年部があります。一つの目標に向かって手を取り合い、様々なアイディアを出し合いながら大きなものにつなげていくことが重要ではないかと考えます。

話は変わりまして、40ページの地方創生加速化交付金について質問します。交付された約1,400万円のうち、「蓮田 NAVI」の日本語版に49万5千円、外国語版に450万円かかっていますが、約9倍の金額をかけて作成した効果は出ていますか。

(小林環境経済部長)

「蓮田 NAVI」の日本語版は広報広聴課で作成し、外国語版は国際交流を担当している自治振興課で作成しました。蓮田市の魅力を感じてもらうことや、転入するきっかけにしてもらうことを目的に作成したので、効果はあったと思いますが、450万円に対する費用対効果の検証をすることは難しいのが現状です。

(田口委員)

どんなことでもやってみなければ結果はわかりませんが、蓮田市内でポルトガル人等をあまり見かけないので、疑問に感じました。

例えば、満開の桜の写真をインスタグラムに掲載するなど、もう少しお金をかけない情報発信の方法があるのではないかと思います。これに費用をかけるのであれば、KPI の項目を設定し、検証できるようにすればよかったのかなと思いました。

(事務局)

羽田空港国際線ターミナルの観光情報センターに設置してある「蓮田 NAVI」は持って行かれる外国人が多いようで、大変好評だと伺っています。ただし、その外国人が実際に蓮田まで来ているかどうかの検証はできていません。

(廣本委員)

資料4について、全国の各自治体でまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定していると思いますが、他の自治体はどのようなことを行っているのかが気になります。特に、近隣で蓮田市と同じようなベッドタウンとしての機能がある自治体の情報を調べ、比較してみると、資料がさらに充実し、行うべきことが少し変わってくるのではないかと思います。

もう1点ありまして、まち・ひと・しごと創生総合戦略策定後に、道路交通法が改正され、自転車に関する罰則等が明確化されました。蓮田市内では、自転車道が蓮田駅周辺に少しあるだけとなっています。自転車事故が発生した場合、行政を訴えてくる可能性が出てきます。市内には新しい道ができてきていますが、自転車が安全に走行できるような状況にはなっていないように感じます。自転車道の整備に関する項目を総合戦略に新たに追加してみてもいいかなと思います。

(事務局)

どの自治体も少子化や高齢化は同じような状況で課題を抱えていますが、総合戦略に位置づけられている様々な事業の比較をしたことはなかったので、廣本委員のご意見を受けて、今後研究してまいりたいと思います。

(治田都市整備部参事)

現在、通勤通学で集まってくる駅を中心に青い矢羽で分けした自転車レーンを設けています。どの道路にも自転車レーンを設けることは、幅員の関係で難しい状況ですが、都市計画道路等の幅員のある道路を中心に自転車レーンの延長等を考えています。

(小林環境経済部長)

交通安全の面では岩槻警察署と連携して自治振興課が所管しています。自転車事故が多発していることや、自転車で被害を与えた場合の損害賠償が高額になることが多いということ、自転車運転のマナー等の問題に対応するため、平成29年4月に「蓮田市自転車の安全な利用の促進に関する条例」を設けました。努力規定ですが、自転車損害賠償保険等への加入促進や、利用者や販売者の責務を定めた条例となります。警察からは、自転車レーンがあれば自転車事故が非常に少なくなるという話を聞いているので、自転車レーンを設置することが望ましいのですが、実際には難しいので、自転車事故が少なくなる環境を整備することが必要だと考えています。

参考ですが、埼玉県は平成30年4月から、自転車損害賠償保険等への加入を義務付ける条例を制定します。

(廣本委員)

道路環境が整っていない状況で、法律だけ先に改正されてしまったので、無理があると思っています。私は自転車に乗ることよりも車を運転することのほうが多いです。例えば、道路の中央にははみ出し禁止のセンターラインが引かれていますが、自転車が走行していると、センターラインをはみ出さなければ追い越すことができない道路がたくさんあります。しかし、このような問題をうまく解決できるような名案が蓮田市において出た場合、他の自治体よりも優れている素晴らしいまちになりますので、知恵を絞っていただければありがたいと思います。

(寺澤委員)

私が利用する最寄駅はニューシャトルの羽貫駅です。しかし、自宅と羽貫駅の間の道は狭く、夜になると非常に暗くなるので、自転車で通行するには非常に危険です。道路が広いに越したことはありませんが、もう少し明るくするだけでも違ってくると思います。道路を広げるよりも街路灯を設置するほうが費用がかからないと思うので、街路灯を増やしていただければと思います。

資料4の7ページ、No.20の「定住・子育て応援促進サイト導入事業」についての質問です。自治体によっては、移住者に対して補助金を交付し、移住を促進しているところもあります。今後、蓮田市としては、移住者に対して補助金を交付する仕組みを設ける予定があるのか、ないのかについてお聞かせ願いたいと思います。

(渡辺総合政策部長)

蓮田市の場合、資料2でご説明しましたように、年間で約2,400名以上の転入者がいます。この人数に対して補助金を交付することになりますと、相当な額になることが予想されます。補助金を交付することが悪いことではありませんが、蓮田市のように転入者が多い自治体では、長い間蓮田市に住まわれているかたとの兼ね合いもありますので、現状では転入者に補助金を交付する必要はないのかなと考えています。

(中山会長)

自治体によっては、転入者に対して毎月数万円の補助金を交付するところもあります。補助金を交付することは難しいと思いますが、知恵を出し合えばPRすることの他に何か良いアイデアが出るかもしれません。寺澤委員は何か良いアイデアをお持ちですか。

(寺澤委員)

情報番組で見たのは、空き家を利用してくれる移住者に対して補助金を交付するという条件が付いていました。

(中山会長)

資料4の33ページ、No.122に「空き家対策事業」がありますが、これに絡めての事業展開はいかがでしょうか。

(渡辺総合政策部長)

蓮田市においても空き家に関する問題はあります。地方のほうでは空き家を絡めた事業を展開している自治体もありますが、都心に比較的近い蓮田市では、転入者がたくさんいますので、空き家を絡めた補助金の交付は難しいものがありますことをご理解いただければと思います。

先ほど資料2の中で転入者が多いと説明をさせていただきましたが、亡くな

るかたが過去最高を更新している状況ですので、総人口は減っています。資料2の3ページにお示ししていますように、年少人口が増えてきているということで非常に良い傾向だと思っています。生産年齢人口が増えるということが一番肝心な部分かもしれませんが、現状では減少傾向にあります。その理由としては、平成29年12月の人口統計では14歳のかたが546人、64歳のかたが846人います。この方々が1歳年齢を重ねれば、546人と846人の差が生産年齢人口の減少につながります。しかし、転入者の増という点におきましては良い傾向だと考えております。

(中山会長)

資料2の4ページの図表6－(2)を見ますと、20代、30代の転入が非常に多くなっています。このかたたちに補助金を交付するとかなりの額になってしまいますし、空き家の活用を実施しても空き家が足らなくなってしまう可能性があります。空き家に関しては別の視点での活用を検討してもよいのではないかと思います。例えば、起業家向けや、保育園や幼稚園の機能を持たせる等の活用もできるのではないかという印象を受けました。

(天野委員)

蓮田市に転入してくる世帯は、1世帯当たり何人の子どもがいるかという国勢調査等のデータはありますか。

0歳～9歳の子どもの転入があるということは、その親も一緒に転入してきていると思われます。生産年齢人口が減少しているというのは、子どもがたくさんいる世帯が転入してきて、子どもがいなかったり少ない世帯が転出しているということなのではないでしょうか。

住宅やアパートを建てたいという相談があった時に、どのようなレイアウトが一番良いのか参考になればと思い、質問してみました。

(事務局)

蓮田市に転入してくる世帯の内訳は集計していませんが、埼玉県が集計した資料によると、1世帯当たりの人員として、蓮田市は2.5人となっています。参考までに埼玉県全体では2.4人という数値になっています。

(中山会長)

図表－6－(2)のグラフを見る限りでは、若い世代に2人以上の子どもの抱えた世帯が入ってきているのかなと思いますが、実際のところはどうなのかわかりません。

(田口委員)

第5次総合振興計画の46ページのNo.53「小・中学校水泳指導民間連携事業」に小・中学校の水泳授業を民間委託するという内容のことが書かれています。私の知人が水難学会という団体に所属し、ボランティアで水難事故に逢った時の対処法や、着衣水泳の講習を行っています。水泳の能力を伸ばすことも大事だと思いますが、それ以外の講習も取り入れていただきたいという要望です。

(高橋学校教育部長)

田口委員がおっしゃった命を守るという面での水泳授業ですが、学校によってはすでに行っています。水着で水の中に入った場合と、衣服を着た状態で水の中に入った場合の違いや、泳ぎに自信のある子でも25m泳ぐことは困難であることなどを体験してもらうというような授業内容になっていると認識しています。このような授業をいくつかの学校で実施していますが、各学校に紹介

してまいりたいと思います。

(前田消防長)

各学校から要望があった場合に消防署のほうで着衣水泳の講習を行わせていただいています。

(中山会長)

ただいまの質問は総合振興計画の部分でしたが、まち・ひと・しごと創生総合戦略においても、教育環境の充実という施策があります。資料4の24ページ、No.86「地域ぐるみの子ども安全推進事業」に自らの命を守るという位置付けで組み込むことも可能なのかなと思いました。

(菊池委員)

年が明けてから御前橋、末広、馬込、下蓮田を中心に歩いて回ったのですが、新築の分譲住宅が多く、そこに小さい子どもがいる若い世代が住んでいることが多いように感じました。その反面、戸建の空き家も増えていることが気になりました。転入人口が増えてきているのは、ここ数年で建売分譲住宅が増えたことと関係があると思います。子育て環境が充実しているということが口伝えで広がっていけば若い世代の転入人口がさらに増えると考えます。

また、市外の幼稚園や保育園に通っている子どもが多いように感じますが、他市と比べて多いのか、少ないのかということや、他市に魅力があるのかなどを今後検証していただけたらと思っています。

(渡辺総合政策部長)

空き家の活用に関して補助金を交付するということは難しいかと思いますが、不動産業者等と連携を図りながら、空き家の積極的な活用について検討していかなければならないと思っています。

(高橋委員)

蓮田市の静かな環境に魅力を感じたかたや、アクセスの良さに魅力を感じたかたなどが蓮田市に転入してきているのかと思います。鉄道に関して、少しではありますが、始発の時間が早くなり、終電の時間が遅くなりました。しかし、少し遠くに出張があって早く出発しなければならない場合は大宮駅まで車で行かなければならないということや、都内で飲み会がある場合などは、少し早目に切り上げなければならないということがあります。始発の時間をもう少し早く、終電の時間をもう少し遅くすることができたら、転入人口がもう少し増えるのではないかと思います。

(田島都市整備部長)

蓮田駅の場合は5時50分が上り線の始発で、たくさんのかたが始発電車に乗っています。市長をはじめ、商工会や自治連合会にご協力をいただき、市民3万人超の要望書を添えて要望活動を行った結果、平成28年3月14日に数十年ぶりに7分ではありますが始発電車が早まりました。それと同時に上野東京ラインが開通し、実質的に東京駅まで15分早くなりました。これで終わりということではなく、現在も継続して要望活動を行っています。終電についても、要望活動を継続していますが、現在のところ時刻表に変更はありません。ただし、これまでは宇都宮線の最終電車が出発した直後に高崎線直通の湘南新宿ラインが大宮駅に到着していましたが、JRに要望し、高崎線直通の湘南新宿ラインが到着して乗り換えの時間を確保した後に宇都宮線の終電が大宮駅を出発するようにしていただきました。しかしながら、高崎線と比較して宇都宮

線のほうが運行時間が短いので、引き続き要望活動を継続してまいりたいと思います。

(加藤委員)

行政にとって若者の発想は非常に貴重な意見かと思っています。蓮田市では、人間総合科学大学及び日本薬科大学とそれぞれ包括協定を結び、様々な事業を実施しており、例えば、子ども大学等で、受講される子どもの数が増えていると報告がありました。今後のことについて、実施していく具体的な事業や、検討していることなどがありましたらご教授いただければと思います。

(事務局)

人間総合科学大学から提案があり、今後、インターネット通信技術を活用し、市内の公共施設において人間総合科学大学の講座を受講できるといった事業も検討しています。

(中山会長)

人間総合科学大学は蓮田市と様々な事業を実施しています。商工会や青年会議所の事業にも本学の学生が関わり、社会勉強をさせていただいています。大学でも地域・産学連携センターを中心に新しい事業に取り組んでいます。岩槻区から、学生が高齢者のサポートをできないかという相談があり、再来週会議を実施する予定です。蓮田市においても何かできないかと考えています。自治会等とも連携して学生の社会勉強の場にさせていただき、お互い有益な関係にできればと考えています。

(天野委員)

達成度がAになっているものが多くなっていますが、中には延べ数で目標値を設定しているものもあります。延べ数で設定した目標値について、上方修正をしたらいかがだと思います。これは意見ではなく、感想です。

(事務局)

達成度がAになったからといって満足するのではなく、より良い市民サービスの向上や、転入人口の増加等に向けて取り組んでまいりたいと思っています。

(浅田副会長)

西口再開発事業やスマートインターチェンジ整備推進事業、新サービスエリア整備事業等が進むと人の流れに変化が生じてくると思います。その中のスマートインターチェンジについて、将来的には4／4方向に出入りができるようになると伺っています。今後、高虫地域及び根金地域に産業団地が整備されると、中・大型車についてもスマートインターチェンジを利用できるようになるのでしょうか。

(田島都市整備部長)

現在、スマートインターチェンジは普通車のみに対応で、東京方面への入口と東京方面からの出口の2方向のみとなっています。平成24年2月に2／4方向が開通し、その後、4／4方向化に向けた検討を開始し、平成29年の夏に国土交通省から全国で9箇所の準備段階調査の調査個所の1箇所に選定されました。蓮田市も大型車対応の4／4方向に出入りができるスマートインターチェンジを整備する予定です。費用対効果や、安全に通行できるということが認められれば国土交通省が事業化を決定します。事業化に必要な検討の期間は約1年のため、早ければ平成30年の夏ごろ事業化が決まります。まずは川島に建設中の蓮田サービスエリア新上り線内に、東京方面への入口と宇都宮方面

からの出口の整備を行います。その後、現在の蓮田サービスエリアを下り線専用にする予定なので、その工事を行う際に、東京方面からの出口と、宇都宮方面への入口を整備しようと取り組んでいるところです。

(浅田委員)

白岡菖蒲インターチェンジや、久喜インターチェンジを利用するかたが多いかと思います。高虫や根金に産業団地が整備されれば運送業界の行路が生まれ、また、スマートインターチェンジがフルインター化されれば更に交通の利便性が向上し、観光客や定住者の増加につながると思います。私の会社でも、自社のトラックで茨城、栃木、群馬を高速道路を使って行き来しています。利便性が向上するので、見通しが明るいと感じました。

(廣本委員)

都内では東京オリンピックに向けて高層ビルやマンションがどんどん建っています。外国人観光客が素泊まりすることを想定して建てられた建物も多くあります。外国人観光客のピークは東京オリンピックで、その後は大幅に減少すると予想されています。外国人観光客が素泊まりすることを想定して建てられた建物の壁と壁の仕切りはコンクリートではなく、厚めのベニヤ板で作られています。なぜかと申しますと、外国人にはワンルームの広さで寝泊まりする場所を提供し、東京オリンピック後は壁を取り払い、2DKや3DK等の間取りに改築しやすいようするためです。

蓮田市の総人口は昨年と比較して大きくは減っていませんが、この状態が何年も続くとは限りません。都内にはたくさんの住居があります。何年か経てば値崩れを起こす地域もあるかもしれません。そうなると、蓮田に住んでいる若い世代が転出してしまう可能性もありますので、他自治体の情報を得ると同時に、蓮田市内に建売住宅を建ててくれる業者を呼び込む等の様々な施策を考えなければならないと思います。

(事務局)

これから研究してまいりたいと思います。

(寺澤委員)

人口について子どもたちが増えているということなのですが、どの地域で増えているのかわかりますか。交通の利便性を求めて駅の近くに転入してきたのか、静かなところを求めて田舎のほうに転入してきたのかを知っておくことは、これからのテーマを考えるうえで大切だと思いますので、教えていただければと思います。

(渡辺総合政策部長)

以前、転入者に対してアンケート調査を実施したことがあります。今後、アンケート調査を実施するなどして分析できればと考えております。

(中山会長)

では、ほかにご意見・ご助言等がなければ以上をもちまして、本日の議事につきましては、終了とさせていただきます。

それでは、会議の進行にご協力いただき、ありがとうございました。議事進行を事務局にお返しします。

4. その他

(吉澤調整幹)

「4 その他」といたしまして、事務局から連絡事項がございます。小山政策調整課長から申し上げます。

5 閉会挨拶	事務局説明 (吉澤調整幹) 以上をもちまして、本日の議事は全て終了致しました。 閉会にあたりまして、浅田副会長から閉会のごあいさつをお願いいたします。 (浅田副会長) 本日はお忙しい中会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございました。1年に1回の会議なので、次回はまた来年の1月になります。 本日の会議の中で、子どもの転入が多いことや、スマートインターチェンジ、西口再開発事業の建設等の明るい話がたくさんありましたが、K P Iの達成度がEとなっているものもあります。来年は少しでもEが減り、Aが増えていくことをご祈念申し上げます。青年会議所といたしましても、婚活支援事業によるカップル成立数が10組を超え、一つでもAの数が増えるように努力してまいりたいと思いますので、皆様もどうぞよろしくお願いいたします。 それでは、平成29年度第1回蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。
--------	---